



日本基督教団

東日本大震災救援対策本部ニュース

Vol. 22

2017年8月23日発行

169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 T/F 03-3202-0541 救援対策本部長 石橋秀雄



石橋議長と張徳謙牧師

教団救援対策本部は今年度（2017年3月末）をもって閉じられました。それに先立ち、3月10日（金）には東日本大震災6周年記念礼拝（110名出席）が早稲田教会でささげられ、震災当時の台湾基督長老教会（以下PCT）総幹事であった張徳謙牧師が説教を担当されました。PCTは震災当初から積極的な支援をしていただき、また被災者支援センター・エマオに300名近いボランティアを派遣してくださいました。礼拝の中で、PCTと福島の子どものための保養プログラム「こひつじキャンプ」に協力くださった東京YMCA、そして

毎月手作りクッキーを被災地に送り続けられた日本バプテスト教会連合練馬バプテスト教会の三者に感謝状が贈られました。また教団が目標とした国内募金10億円を上回る献金が集まったことも含め、未曾有の災害を通して教団が主の体なる教会として結束し、今後更に国内外の教会とも祈りを合わせながら成長する共同体であってほしいと切望しました。

その後教団会議室にてエマオへボランティアとして参加したワーカー交流会（40名出席）がもたれました。エマオの新旧スタッフや懐かしいワーカーなどと、この6年の歩みを振り返りつつ、今後のエマオとの関りや熊本・大分地震による被災地を含めた「教会の災害への向き合い方」を分かち合いました。特に現在の被災地の状況やエマオの活動、懐かしい方々のビデオレターやスライドショーなどもあり、笑顔のあふれるひと時となりました。また参加していた「ハートフル釜石」の専従者からも、これまでの取り組みを聞きました。

この6年間、それは多くの人々がエマオを通して教会に泊まり、被災地へと派遣されてゆきました。そして被災者と支援者を越えた関係が生まれ、一生の関係を築いた方々も多くありました。また就職先に仙台・石巻を選んだ学生や、この地へ移住した方々もいます。そしてエマオを通して初めて教会とその価値観や姿勢に触れ、戻った後に教会に通い始めた方々もいると聞いています。まことに「教会の業」として主の御足の跡に従う歩みをなしてきた被災者支援センターエマオの6年の歩みを振り返り、これからの歩みに皆で祈りを合わせ、閉会しました。

今後「こひつじキャンプ」は東北教区放射能問題支援対策室「いずみ」に引き継がれ、被災三教区（奥羽・東北・関東）内の会堂牧師館再建貸付を受けている諸教会からの返済に関しては、東日本大震災救援対策継続事業委員会が担当します。

東日本大震災 6周年記念礼拝 & ボランティア交流会報告

学生キリスト教友愛会
主事
野田 沢

2011年3月11日～2017年3月31日 東日本大震災救援対策を振り返る

2011年3月11日の震災発生から6年、日本基督教団は本年3月31日をもって全ての救援対策事業を終えました。以下、「エマオ仙台」「エマオ石巻」「ハートフル遠野（後に釜石）」「こひつじキャンプ」「被災地支援演奏会」、その他本部が関わった国際関係事業について、担当者がそれぞれの歩みを振り返ります。



■エマオ仙台・エマオ石巻

エマオの歩みを振り返って

エマオ仙台 教団派遣専従者 佐藤真史

○働き人たちへの感謝

2013年3月11日に発行した『エマオへの道』の巻頭言に、高橋和人牧師（当時・東北教区議長、現・田園調布教会）が次のように記しています。

ここにいたるまで、本当に多くの人々が懸命に関わってきました。その中にはこのエマオの働きに打ち込みながら、思いの途中で離れなければならなかった仲間たちが多くいます。それぞれの事情や、関わり方や働きの違いもありました。そのどれもが勇敢であったと思います。その姿勢は旧約聖書の士師たちのように写ります。士師たちは個性的であり、そのときにその務めに立てられて働き、その働きが受け継がれていきました。それは、忘れることのできないことです。

エマオの活動が続く「いま」も含め、私にとってこの言葉はずっと真実です。まさに士師たちのように、その人なりに懸命に、被災された方たちに仕えようとする働き人たちがいました。ワーカー、教会、東北教区センター……、特にスタッフとして人生の貴重な一幕を献げてくれた一人一人のことを、私は感謝と共に覚え続けていきます。教団の癒しの宣教を担った多くの働き人たちのことを、皆さんにもぜひ覚えていただきたいと願っています。

○エマオの記憶と働きは塩のように用いられることを

先日、7月に起こった九州北部豪雨被災地にボ

ランティアへ行ってきました。山津波に襲われた朝倉市杷木という地域で泥かきのワークを一日だけお手伝い出来ました。以前、九州教区からエマオにワークに来てくれた友人が誘ってくれたのです。また、ボランティア・ベースでは、東北の被災地で出会った知り合いに偶然にも再会出来ました。エマオを通して与えられた「震友ネットワーク」が、次の災害支援にも活かされていることを感じます。

第一巻発行から4年後の2017年3月11日に、『エマオへの道 vol.2』を発行しました。小西望牧師（現・東北教区議長）は巻頭言の中で次のように記しています。

被災者支援センター・エマオの姿は、関わった個々人において異なるのだと思います。主イエスが「あなたがたは地の塩である」と言われたことを思い起こします。人間の血中塩分濃度は0.9%、そして美味しく感じる塩分の濃さも同



ボランティア・ワーカーの朝のミーティング

じ 0.9% なのだと聞きました。被災者支援センター・エマオの記憶と働きまたその意義は、連なった一人一人の中に溶け込んでその人の歩みに意味ある形で寄与しているのではないのでしょうか。被災者支援センター・エマオ自体が目的になることはありません。塩のように何かしら用いられることが、望まれているのだと思います。

エマオに集まった一人一人が経験や知恵を持ち寄って与えられた言葉があります。「スローワークと祈りの循環」、「被災された方とのパートナーシップ」、「ささへあう」、「仮設の最後まで」、「支援者の支援」。どれも 100 点満点だったとは言えませんが、ずっと大切にしようとしてきたものばかりです。どこかでまた誰かが違う形で活かしてくれると信じています。そして、何よりもエマオが大切にしてきた「出会い」は、これからも血中塩分のように残っていき、用いられていくはずで

○おわりに

最初は 3 年位と言われていたのですが、気付けば救援対策本部が閉じるこの 3 月末までの 5 年間務めることが出来ました。

「貴重な出会いが沢山与えられるはず」と背中を押してくれた野田沢 SCF 主事（初代専従者）の言



台湾からのボランティア・ワーカー歓迎夕食会

う通りでした。東北教区内だけでなく全国・海外の教会の方たちと、大学・高校・青年たちと、そして何よりも被災者の方たちとの大切な出会いが沢山与えられました。

この 5 年間、多くの課題があり、あまりの重荷ゆえに投げ出そうとした事も度々ありました。しかし、その度にいつも支えと助けがありました。そして何よりも、現場スタッフたちを祈り支えていただきました。神さまと皆さんに心からの感謝で一杯です。

エマオの働きは「いま」も続いています。これからも、3・11 で被災された方たちのことを、そして働き人たちのことを、祈り支えていきましょう。

【2011/3/11 - 2017/3/31 ボランティアワーカー 8,555 名。但し初動期は不明。】



■ハートフル釜石 (旧ハートフル遠野)

「お茶っこサロン」の歩み

常勤スタッフ 佐々木ムツ子

2012 年 2 月から釜石市社会福祉協議会の委託事業であるハートフルの「お茶っこサロン」を開催してから 5 年が経ちました。問題や課題が多々ある中で釜石仮設住宅の一部、4 仮設から「お茶っこサロン」が始まり、今は 19 仮設と 2 復興住宅、1 復興住宅 & 地域の 22 か所での展開になっています。

開催当初、被災者の方々は「お茶っこ?」「どの誰が?」「何をするの?」と不安げに窓から覗き込んでも参加者は誰もいませんでした。参加者がいなくても部屋を暖め、CD を流し、参加者が来たときでも多くを語らず、温かい飲み物を提供し

ました。そうしている中で、1 人、2 人と参加者が増えて行きました。そして 16 人から 20 人の方が参加する仮設もありました。

5 年経ち、今は自立再建の方、内陸への転居の方、仮設間集約のための仮設間転居の方、復興公営住宅への入居の方などで、参加者は少なくなってきています。

しかし、「お茶っこサロン」では、お茶っこや手芸で楽しい一時を過ごされていると感じます。たとえ手芸が苦手な方でも お手伝いしながらの完成に大満足をしています。

その他、年に 3 回の日帰りツアーは、被災地か



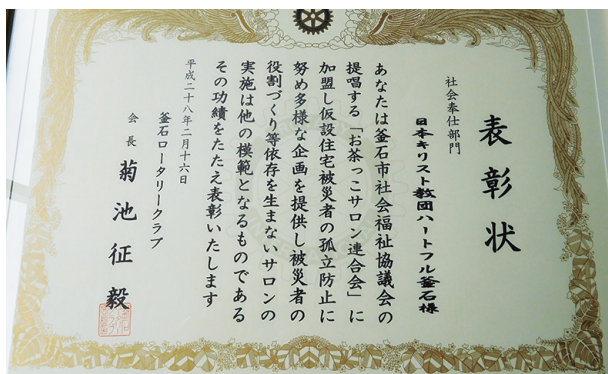
釜石仮設でのクリスマス会（サンタに扮した平田スタッフ）

ら離れ、仮設での生活の疲れを癒すだけでなく、他の仮設の方々との交流や地元の方々との情報交換の場になっています。

2014年からは、一泊ツアーが年に2回実施されるようになり、日帰りツアーとは又違っての「語り合う場」になりました。日頃のストレス疲れをのんびりお湯っこに浸かり、癒され、翌日からの活力とされていると感じます。

活動期間も残り5ヶ月となりました。「日帰りツアーなど行かなくても良いからハートフルさんの活動を延長できないの？」と口々に聞かされる日々です。思い出のツアーや手芸での完成品の数々、クラフトの手提げや飾り物、アクセサリ……。それを眺めてはため息をついている方もいらっします。「ハートフルさんが支援に来てくれてとても有りがたかった。お茶っことや手芸を楽しむに今日一日生きて居られた！」と話される方もいらっします。

釜石中心部に復興公営住宅が次々に完成し、被



釜石ロータリークラブからの表彰状

災した方々が安心して生活できる環境になり始めたようにも感じますが、新たな課題が生まれています。それは、震災当初、避難所から仮設に移った時より深刻だと感じます。仮設に住んでいる時は、復興住宅へ移るとか、自立再建して仮設から離れる事が心の逃げ道になっていましたが 復興住宅は生涯住む場所なので、付き合う方を選ぶのに力を入れすぎ、かえって引きこもる方や 元の仮設へ出向く方がいらっします。復興住宅の環境（マッチ箱のような建物、窓の外は人影も見えず。ドアを閉めると孤独を感じるなど）に慣れる事は、高齢者の方々は大変だと感じます。

時間が経つ中で、その時その時の支援の形も変わりつつあります。今こそが支援の必要性を感じる中、残りわずかな時間を大切に被災した方々に寄り添いたいと思っています。

（「EMS・UMCOR 最終報告書」より 2016年10月）

【2012/2 - 2017/3 ハートフル主催「お茶っこサロン」
1,329 回開催・延べ 17,544 名参加】



釜石仮設の方への贈り物（大井バプテスト教会「あけぼの幼稚園」園児）



釜石仮設での交流会（大井バプテスト教会「あけぼの幼稚園」教諭



■こひつじキャンプ in 山中湖・ 妙高高原・台湾

東日本大震災救援対策本部幹事 飯島 信

台湾／聖歌隊と一緒に（彰化）



リーダーと遊ぶ子どもたち 妙高高原にて

2012年1月13日～15日、放射能の影響を避け、自然の中で保養することを目的とした第1回の「こひつじキャンプ」が、福島県の親子を対象に、東京YMCA山中湖センターで始まりました。それから4年余り、2016年10月の東京YMCA妙高高原ロッジで行われたキャンプを最後に、日本と台湾を会場とした計28回にわたる「こひつじキャンプ」が終了しました。国内では、東京YMCAの施設である山中湖センターで12回、同じく妙高高原ロッジで9回、YMCA阿南国際海洋センターで1回の計22回が行われ、台湾では計6回行われています。

国内キャンプを実施するにあたって、東京YMCAは素晴らしいリーダーとスタッフを毎回送り続け、全面的な協力を惜しみませんでした。特に、震災当初から始まった多くの保養キャンプの



みんなで楽しくうどん打ち 山中湖にて

中でも、「こひつじキャンプ」はプログラムの時間がゆっくり流れるので知られていました。国内22回にわたるキャンプには、保護者269名、子ども359名の628名、リーダー等スタッフ138名の総計766名が参加し、自然の懷に抱かれつつ、親子が一緒になって走り回り、心行くまで遊び続ける時間を持つことが出来ました。



台湾／ボランティアの青年たちと一緒に（中正国民小学校：彰化）

一方、2014年1月には、PCT（台湾基督長老教会）からの招きとUMCOR（アメリカ合同メソジスト教会海外災害支援部）からの支援によって「こひつじキャンプ in 台湾」が始まります。第1回の嘉義（嘉義中会）、第2回の宜蘭（七星中会）、第3回の台南（台南中会）、第4回の台東（東部中会）、第5回の新竹（新竹中会）、そして第6回の彰化（彰化中会）で行われたキャンプには、親子161名、スタッフ34名の計195名が参加しました。そして、その全てのキャンプで、PCTに連なる各中会及び教会から、私たちの思いをはるかに超えた歓迎を受けました。

特に最後となった彰化では、2日目に永福教会で日本基督教団による感謝礼拝が行われ、石橋秀雄本部長が感謝のメッセージを語り、それに対しPCTの林芳仲総幹事が応答しました。

3年間、6回にわたるキャンプが実現出来たのは、PCT及びUMCORの支援によってです。心から感謝すると共に、このプログラムを通して培われた台湾・アメリカ・日本の3者の祈りによる協働の業を、今後ますます力強く前進させて行ければと思います。



■沖縄キリスト教学院大学主催 「沖縄・東北交流招待プログラム」

■ 2013年8月7日～11日

【参加者】小学生 11名・中学生 5名・引率 3名 計 19名



■ SMJ 主催 Discovery Camp

■開催地

Camp Quinipet Shelter Island, New York, United States

ニューヨーク在住の日本人への伝道を目的として組織された日本人特別牧会（SMJ=Special Ministry to the Japanese）主催の Discovery Camp が3年にわたって行われました。被災地の子どもたちをアメリカの教会が中心となって募金を集め、招待して下さいました。

【各年度の参加者概要】

- ・2015年度：宮城学院高 2名・宮城学院中 3名・東北学院中 3名・福島県公立中 2名・引率 2名 総計 12名
- ・2016年度：遺愛学院中 2名・東北学院中 2名・ザベリオ学院中 3名・引率 2名 総計 9名
- ・2017年度：遺愛学院高 2名・宮城学院中 2名・東北学院中 2名・福島県公立中 2名・引率 2名 総計 10名



2015.11.25 10:38
遠野市「元気わらすっこセンター」での演奏

■被災地支援演奏会

この演奏会は、2012年秋に、石橋秀雄本部長の仲立ちで、越谷幼稚園で毎年演奏会を行っている4人の演奏者たちの被災地での演奏の希望から始まりました。新日本フィルハーモニー交響楽団関係の鈴木隆太（ピアノ）・山口幸子（ヴァイオリン）・渡邊怜雄（コントラバス）・田中茂行（ファゴット）氏らのグループでした。2013年1月、身を切るような冷たい風の吹く石巻での第1回演奏を皮切りに、その後多くの演奏者が交代で加わりながら、心温まる演奏を被災地に届けて下さいました。

◆演奏場所：

【宮城県】石巻市：石巻山城町教会、石巻小学校、仮設住宅、個人（及川絹子宅）、エマオ石巻 仙台市：仙台南伝道所 名取市：名取教会、名取幼稚園、増田小学校

【岩手県】釜石市：イオン釜石、仮設住宅、復興住宅、公民館、個人（久保路子宅）、安渡保育所、おさなご幼稚園、岩手県立祥雲特別支援学校 遠野市：「元気わらすっこセンター」、仮設住宅「希望の郷 絆」、遠野聖光幼稚園

【福島県】いわき市：常磐教会、梨花の里保育園、白水のぞみ保育園、白水小学校、介護老人保健施設「いきがい村」 郡山市：郡山教会、ニコニコ子ども館（市主催「母と子のコンサート」）

【栃木県】那須塩原市：アジア学院

◆演奏者（敬称略）：

【ピアノ】鈴木隆太・高橋伊緒・木村リエ・木村リサ・斎藤葉子

【ヴァイオリン】山口幸子・角田育代【チェロ】橋本しのぶ・五十嵐あさか【コントラバス】渡辺怜雄

【ファゴット】田中成行・高橋あけみ【ソプラノ】西谷衣代



渡辺怜雄（コントラバス）と山口幸子（ヴァイオリン） アジア学院

■被災教会貸付金返済支援チャリティー・コンサート

被災地支援演奏会に続き、2015年12月からは、貸付を受けている教会の貸付金返済を支援するチャリティー・コンサートが始まりました。チケットを販売し、その売り上げ全ては被災3教区へ送られます。なお、常磐教会・水戸中央教会・アジア学院は、貸付を受けているため、売上金はそのままそれぞれの返済に充てられました。

◆演奏場所【（ ）内はチケット売上・献金額】：

【福島県】常磐教会（3万円）【千葉県】千葉本町教会（21万円）【神奈川県】横浜指路教会（48万7,144円）【東京都】田園調布教会（18万5,420円）・霊南坂教会（44万3,450円）・立川教会（10万円）・教団事務局（8万9,318円）【埼玉県】越谷教会（18万円）・志木教会（12万円）【茨城県】水戸中央教会（16万1,500円）【栃木県】アジア学院（13万9千円・6万円）・鹿沼教会（11万7,000円）

※チケット売上・献金総額：232万2,832円

◆演奏者（敬称略）：新メンバーのみ掲載

【ピアノ】高橋碧伊・日下知奈・小藺江涼子・西島麻子【チェロ】井上とも子【フルート】斎藤光晴

■東日本大震災国際会議

【概 容】

主 題：「原子力安全神話に抗してーフクシマからの問いかけ」

日 時：2014年3月11日（火）～14日（金）

場 所：東北学院大学 主 催：日本基督教団

協 賛：東北学院大学

参加者：記念礼拝500名・記念講演550名・会議250名（海外80名・国内170名）



■国際青年会議 in 京都

【概 容】

主 題：「エネルギー持続可能社会の実現を目指して」

日 時：2017年3月28日（火）～31日（金）

場 所：関西セミナーハウス

主 催：日本基督教団

参加者：110名（海外11ヶ国20名・国内90名）

■任を終えるにあたり

飯島 信

3.11より1年5ヶ月を経た2012年8月にこの仕事をお引き受けしてから5年、与えられた務めによって得ることの出来た豊かさは計り知れません。釜石・遠野・石巻・仙台の仮設住宅の方々との「お茶っサロン」を通しての交わりを初め、保養キャンプに参加した福島の親子との出会い、被災地で演奏をして下さった多くの演奏家や聴きに來られた方々との交流など、私の予想をはるかに超える日々でした。私の仕事は、救援対策本部長、対策室長を初めとした本部委員の方々によって支えられました。救援対策事業に関わる提案は常に真摯に受け止められ、討議により内容に深みと豊かさが与えられ、全ての企画に委員たちの惜しみない協力が準備されました。

さらに又、忘れてはならないのは、海外からの支援です。ハートフルの働きはEMS（福音連帯宣教会）によって、エマオ仙台・石巻はUMCOR（アメリカ合同メソジスト教会海外災害支援部）によって、又こひつじキャンプはPCT（台湾基督長老教会）とUMCORによって、国際青年会議はRCA（アメリカ改革派教会）によって支えられました。

最後に、この任が与えられたことによって、各教区を訪れ、教区議長らと語り合う時が持てたことも喜びでした。私のような力足りぬ者の働きを祈りをもって支え続けて下さった諸教会の皆様へ感謝し、被災地・被災教会に対する神様のより一層の支えと導きを祈りつつ、私の任を終える言葉といたします。心からの感謝をもって。（2017/8/10記）

東日本大震災救援対策本部会計収支計算書

	11 年度～ 15 年度	16 年度	合計
	2011 年 3 月 12 日～ 16 年 3 月 31 日	2016 年 4 月 1 日 - 3 月 31 日	2011 年 3 月 12 日～ 17 年 3 月 31 日
【収入の部】			
繰 入 金	50,000,000	0	50,000,000
海外募金収入	404,876,231	3,235,810	408,112,041
国内募金収入	1,023,931,378	5,519,699	1,029,451,077
緊急救援募金繰入	94,418,359	0	94,418,359
東日本大震災救援募金	893,040,093	3,895,605	896,935,698
国内指定献金	30,167,523	107,337	30,274,860
東北教区放射能問題指定献金	6,305,403	1,516,757	7,822,160
集会等参加費	945,327	1,042,140	1,987,467
雑収入	479,194	842,585	1,321,779
繰入金収入	393,296,952	129,929,556	523,226,508
長期借入金収入	70,000,000	0	70,000,000
長期貸付金回収収入	270,000,000	50,000,000	320,000,000
積立預金取崩収入	33,845,092	16,922,447	50,767,539
退職給付引当資産取崩収入	0	3,768,065	3,768,065
敷金・保証金戻り収入	0	108,460	108,460
当年度収入合計 (A)	2,247,374,174	211,368,762	2,458,742,936
前期繰越収支差額	0	166,440,414	
収 入 合 計 (B)	2,247,374,174	377,809,176	
【支出の部】			
会堂牧師館再建補助金	546,287,429	33,500,000	579,787,429
救 援 金	287,628,051	67,136,817	354,764,868
見 舞 金	1,943,000	0	1,943,000
委 員 会 費	11,875,097	2,777,186	14,652,283
渉 外 費	2,278,783	417,825	2,696,608
人 件 費	147,752,999	47,352,230	195,105,229
給 与	69,294,496	31,403,678	100,698,174
雑 給	60,180,365	6,616,337	66,796,702
通 勤 交 通 費	1,827,088	607,137	2,434,225
法 定 福 利 費	15,885,369	4,965,598	20,850,967
退職金支払額	234,650	3,559,480	3,794,130
福利厚生費	331,031	200,000	531,031
事 務 費	93,173,102	16,663,212	109,836,314
報酬委託手数料	8,453,714	1,483,628	9,937,342
通 信 運 搬 費	8,072,407	1,354,833	9,427,240
リ-ス・レンタル料	3,822,316	1,964,811	5,787,127
水道光熱費	4,039,210	317,641	4,356,851
旅 費 交 通 費	27,720,822	5,185,353	32,906,175
消 耗 什 器 備 品	2,240,935	130,970	2,371,905
消 耗 品 費	3,110,062	482,622	3,592,684
印 刷 費 等	5,374,247	825,158	6,199,405
保 険 料	924,295	55,335	979,630
租 税 公 課	141,108	47,850	188,958
新聞・図書費	10,410	26,740	37,150
修 繕 費	524,922	15,984	540,906
地 代 家 賃	27,099,060	4,447,956	31,547,016
敷 金 支 出	154,000	0	154,000
雑 費	1,485,594	324,331	1,809,925
活 動 費	25,053,831	11,293,610	36,347,441
食 費	3,846,089	508,263	4,354,352
救 援 物 資 等	2,328,095	89,806	2,417,901
旅 費 交 通 費	3,049,995	1,992,377	5,042,372
集会費	12,411,277	8,301,379	20,712,656
謝 礼	2,989,317	367,222	3,356,539
福 利 厚 生 費	306,453	24,663	331,116
雑 費	122,605	9,900	132,505
特) 国際会議実行費	0	7,287,730	7,287,730
車 両 費	14,634,995	1,161,780	15,796,775
車両購入費	1,425,640	0	1,425,640
燃料費・駐車場代金等	13,209,355	1,161,780	14,371,135
建 物 費	13,241,982	0	13,241,982
土地建物購入費	7,800,000	0	7,800,000
工事・設備取得	5,441,982	0	5,441,982
繰入金支出	443,296,952	152,929,556	596,226,508
長期貸出金支出	320,000,000	0	320,000,000
積立て預金支出	53,767,539	768,065	54,535,604
救援対策基金戻入金	50,000,000	0	50,000,000
長期借入金返済支出	70,000,000	0	70,000,000
当年度支出合計 (C)	2,080,933,760	341,288,011	2,422,221,771
当年度収支差額 (A)-(C)	166,440,414	▲ 129,919,249	36,521,165
次期繰越収支差額 (B)-(C)	166,440,414	36,521,165	